

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 特になし	1. 陸奥湾 ●9月の月平均水温は25.7℃と平年値より3.3℃高く、観測開始以来の最高値となった。また、最高水温のピークが例年よりも15日程遅れる特異な年となった。 ●陸奥湾の水温は、青森湾15m層で25℃を超える日が延べ24日間を記録するなど、例年より2～4℃高めに推移し、平成22年の猛暑年に次ぐ高水温となった。 ●8月上旬から10月上旬にかけて、陸奥湾中央部の底層溶存酸素4.3mg/Lを下回る低酸素水塊の存在が確認された。 2. 対馬暖流 ●舩作崎西方における対馬暖流の最高水温は、8月には全層で例年より低めであったが、9月には高めとなり、表層ではなほだ高め、50mと100層でかなり高めに推移した。	●陸奥湾での高水温の影響を受けて、ホタテガイ養殖での稚貝分散作業は、例年より大幅に遅れた。	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 特になし	●9月に行った海洋観測では、表面水温が高い傾向にあり、平年値を3.0～3.4℃上回った。	特になし	特になし

山形県水産試験場

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●猛暑の影響で高水温となり、最近5年間の平均水揚げが1.5トンあった9月のサケの水揚げが「なし」となった。	●猛暑の影響で、9月の水温平均が表層26.5℃、水深50m層23.7℃と1965年に観測開始以来最高となった。	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●アジ、サバ、ブリ、サワラの浮魚類が不漁。7～9月の定置網における各魚種の漁獲量は、過去5カ年平均と比較して、アジ23%、サバ6%、ブリ13%、サワラ18%であった。 ●サザエが越後側、佐渡側ともに不漁で、例年の5～7割程度の漁獲にとどまっている。越後側において四月上旬の大時化でサザエが海岸に打ち上げられたり、波打ち際や海底でサザエの死骸が多数確認される現象が見られた。	●9月の表面水温が、かなり高めであり(平年比+1.83～+2.57℃)、特に県北沿岸域が高い傾向にあった。	●シロサケの主産地である県北地区の9月の沿岸来遊状況が昨年比0.02%(H241尾:H23 58尾)と、極めて不振な状況であった。	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●例年8月中旬頃から定置網で漁獲され始めるアオリイカについて、本年は9月末までに29トンの漁獲があった。これは過去10年間平均13トンの2.2倍の漁獲量に当たり好調なスタートとなっている。なお、本県沿岸水温が高めで推移する年は水揚げ量が多くなる傾向があることから、今後も好漁が期待される。	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●サワラ当歳魚が例年(9月中旬)より半月、前年より1カ月早い8月下旬に来遊した。 ●8月の定置網漁獲量は153トン(前年51トン)。内、サワラ銘柄72トン、サゴシ銘柄81トン。	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●9月に定置網でカマスサワラが約3トンの水揚げ。同月過去10年平均(178kg)の18倍。	●沿岸定線観測による表層水温は、7月(19.2℃)平年並みであったが、8月(23.9℃)平年よりやや高め、9月(26.3℃)平年よりかなり高めとなった。なお、10月も高め継続中。	●8月上旬から9月中旬にかけ、府内の内湾域(舞鶴湾等)で平年を1～2℃以上も上回る高水温(28℃以上)が長期間続いた。その結果、高水温と餌不足の影響と推測される養殖トリガイの大量へい死(平年の倍以上の死亡率)が発生した。	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 【境港まき網】 ●クロマグロ(6～8月)の水揚げは、583トンと前年(1,652トン)を大きく下回った。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●境港内にて貝桁でトリガイを9/1～9/20まで漁獲。	●エチゼンクラゲ来遊。8月24日聞き取りで本県中部沖合で60cm程度の個体を数隻が視認。9月28日の小型底びき網漁業者からの聞き取りでは、美保湾内で60cm程度のクラゲを確認(4～6個体/3時間曳) ●本県沿岸域の7～9月のクロロフィルが低く推移(0.1 μg/L以下)。	特になし	特になし

機関名: 鳥根県水産技術センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 特になし	●恵曇の海水温は、8月下旬～9月中旬にかけて、平年より「かなり高め」(10年に1回の出現確率)で推移した。	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成24年7月～9月 ●8月のマアジ・マサバが不漁(日本海側中型まき網漁獲量:マアジ75トン(平年比31%)、マサバ35トン(平年比38%))	●8月の萩市沖表層水温平均値が28.24℃と、1964年以降の最高を記録。8月下旬～9月にタコクラゲが長門市沿岸で大量発生(大泊漁港では推定千個体以上)。	●6～8月のバフンウニが不漁。萩市場取扱量は平年(過去5ヶ年平均)の37%	特になし